

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500194		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム押水(さくらユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜えびすが丘59		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市成町712番地3		
訪問調査日	令和5年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送って頂きます。
 ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します。
 ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します。
 という理念を活かし、その人らしい生活を送ってもらえるように頑張ります。
 利用者さんと行事を行い楽しいひと時を過ごして頂きます。
 ドライブ 中庭での食事 文化祭の展示出品 など 利用者さんと共に 楽しんでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指す目標を示し、利用者個々の事情を汲み、症状や能力に沿いながら生きる意欲を引き出せるよう取り組んでいる。
 ・コロナ禍で厳しい制限が続く中、皆で繰り出す外出は断念しつつも、予防対策を講じて個別・少人数で馴染みの砂浜や銀杏並木、コスモス畑等に出かけたり、誕生月に行きたい所に向向企画も外食無しで継続し、入浴は本人ペースで土日以外毎日利用される方々もあり、食事は調理専門職員による美味しさ優先料理で、旬食材で拵えた手作り弁当、土間打ち中庭の枝垂れ桜を興じた寿司定食、バーベキューや流しそうめんも企画し、文化祭にはこれまでと違う共同制作でお花紙ピクチャーを出品するなど、コロナ禍を忘れさせる暮らしとなるよう取り組んでいる。
 ・昨年度より、タブレット入力によるバイタル計測や排泄管理をし受診や家族説明時にグラフ化や映像提供を可能とするIT化、ペーパーレス化に着手しており、今年度は有給休暇取得を促進させ、また職員グループラインを作り情報共有と自由な話し合い環境整備に着手しているなど、より働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議開始前に全員で唱和するとともに、日々事あるごとに理念を念頭におきながら利用者様と関わる努力をしている。	「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」を理念とし、昨年は不参加だった文化祭に、これまでと違う共同制作のやり方で皆でワイワイ話しながら完成させたお花紙ピクチャーを出品するなど、コロナ禍にあっても職員が家族さながらに利用者個々の暮らしと皆との暮らしが充実するよう、会議での唱和や日々の関わりの中で理念に立ち返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	介護スタッフが感染したことで、より一層地域との関わりが難しい状況となった。そのような中で地域の女性の会からタオル、手をつなごう会からシクラメンをいただき感謝している。	コロナ禍が続き、今年も初詣や左義長、敬老会の参加、スーパーや図書館利用、近隣保育園の運動会やクリスマス会のお誘い等々が中止や自粛で、自治体主催の認知症フォーラムも不参加だったが、文化祭への出品はでき、町の福祉活動団体からタオルや花を頂いたり、近所の方に除雪をしてもらったり野菜を頂いたり、入居相談を受ける機会もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無断外出した利用者様が地理に詳しいので、近所の人を通じて、今後ともホームのスタッフ利用者さんの事を理解してもらええる様に、挨拶に行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により面会禁止にしているため書面での事業報告を運営推進会議としている。	自治体担当課には運営推進会議の書面報告をはじめ、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等々、制度・法令順守に努め、感染防止対策の指示や情報等を頂き、今年度は助成金を支給して頂くなど、感染対策強化支援を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催中止の件、感染症対策の助成の相談や介護保険更新申請等で月に数回市町村担当者と顔を合わせる機会をもうけている。	自治体担当課には運営推進会議の書面報告をはじめ、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等々、制度・法令順守に努め、感染防止対策の指示や情報等を頂き、今年度は助成金を支給して頂くなど、感染対策強化支援を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最近、利用者さんの言動がおかしいと会議で話があり、スタッフで話し合う。スタッフの何気ない言葉使いや態度など、一度見直してみようとなり「一月月優しくする」を目標にしその人に接してみようとする。	日中の玄関施錠はしてなく、つい口に出る利用者を抑制するような声かけをはじめ、さみしくて不穏な言動になる方には優しい言葉の声かけや傾聴を心がけ、帰宅願望の強い方へは度々一緒に出るなど、職員会議で日常に起きた正解のない対策を皆で検討し、利用者の思いを優先に身体拘束をしないケアの具現化に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6(5)同様に優しい声掛け優しい態度が虐待防止に繋がる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解できるスタッフもいるが、すべてのスタッフの理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「正月に気多大社に連れていきたい。」と家族さんから相談がある。人が多いところは今は出られないすいません。と断るが、墓参りだけしたいと思います。といわれ、墓参りのため外出する。	家族訪問や電話連絡時に、金銭管理報告や衣替え依頼に体調や近況を伝え、毎月の請求書には法人代表者や担当職員が撮ったスナップ写真も同封し、退所時には写真集のSDカードやパネルを渡した事もある。頻繁に来訪家族も多く、今はマスク着用・検温・手指消毒で玄関での2m間隔や応接室でのアクリル板越し面会をお願いしている。家族との墓参りや差し入れ品の受け取り、日頃も気軽に電話して頂くなど、ホームとしてできることを模索している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族さんから、利用者さんが、コーヒーが好きで、飲みたいときにコーヒー飲んでいるか聞いたら、いつでも飲んでいると聞き安心しました。と言われる。会議で本人が飲みたいときいつでも飲み物を提供したい。と意見がありカフェインで寝れないことがないか。好きなものはいつでも上げてもいいんじゃないか。など話し合い後実行する。	毎月のユニット会議には法人代表者、近隣法人事業所の管理者、元自治体職員の非常勤職員が参加し、代表者がいることで職員からの提案も内容如何では即決で反映される仕組みになっている。今年度も、墓参りの外出許可や嗜好品の提供是非、退屈になると不穏行動になる方の持ち物たさ解消に装飾品作りや洗濯物たたみ作業の提案等々、直近の問題や課題を皆で協議している。昨年度から勤務体制や労働時間調整、生活記録や三則表のIT化・ペーパーレス化に着手し働きやすい環境作りや業務効率化に取り組んでおり、今年度は有給休暇の積極的活用推進とともに職員グループラインを作り、情報共有と自由な話し合いの環境整備に着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じシフトや労働時間の調整等を行い誰もが働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は町主催の勉強会に参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。スタッフに、新しい利用者さんが入所したら、本人さんが早く慣れる様に会話をしながら、昔の事を聞いてどのように過ごすか話し合う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。家族さんにヒヤリングシートを渡し、どの様に過ごしてもらいたいか聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	しりとりを一緒にしていたが、いつの間にか利用者同士がいつでもしりとりをする。その中にスタッフが後から混ぜてもらおう。小さい事でもアットホームだなあと感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	11(7)の様に本人が好きなものがいつでも提供出来るようにしたい。 本人の旦那さんが亡くなり家族は落ち込まないか心配して何度もテルくれたり、スタッフに状態を聞いたりして乗り切る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中々外に出れないが、美容院、墓参り、近所の友達が面会に来て、ガラス越しで話したりする。	なかなか外出がままならない状況下でも、行きつけ美容院に事前予約で家族が連れ添ったり、家族との墓参りや友人とアクリル板越しで面会したり、気晴らしに頻りに足を運んでいた千里浜なぎさドライブウェイにも行くなど、それぞれ感染防止対策を講じながら、できる馴染みの支援に取り組んでおり、また出かけられない分、若い頃や入居前の人や場所との関わりを傾聴する支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知が進んだ利用者さんがポツンといないようにカルタなどするときには一緒にできる様に輪の中に入れてもらう。利用者さんが手伝ってくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日コーヒー・コーラを飲む利用者さんがいる。毎週土曜日利用者のお兄さんが持ってきてくれる。体重管理をしながら本人の希望を聞く。マンガの本が好きな利用者に漫画を提供。	昨年度に、A4用紙に本人の顔写真を貼り、その回りに介護支援や症状管理、家族窓口等を受け持つ担当職員がお聴きした思い出話や経歴、好きな事、やりたい事等を書き込む「独り言」シートを作成しており、日々のサービス向上やユニット会議等での情報共有に活かしている。思いや意向の把握が困難な方には、日頃の関わりの中でこれまで培ってきたその表情や仕草からお気持ちを察して、本人本位のケアとなるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。「独り言」シート作成時回想法を取り入れ、利用者さんに聞き作成しいろいろ分かる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを知り、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを基に毎月会議で話す。認知が進んだ利用者が最近怒りっぽく入れ歯を外すのを拒否するのでどうすればよいかと話しあう。一人のスタッフで対応せず、皆で変わりがら対応するようにと意見がある。	毎月のユニット会議にて全利用者状況をモニタリングし、その結果を踏まえ、ケアマネまたは計画作成担当者が、基本1年毎に本人・家族の意向を反映させて更新作成し、面会訪問時や郵送等にて承諾を頂き、体調・症状の変化や入院等があれば随時見直し更新している。利用者にとって今の状態が少しでも長く続くよう健康維持を主体にした目標設定と、そのための課題やケアの在り方を計画化している。	本人が望む暮らしぶりやしたい事も目標にされ、そのためにどんな支援が必要かを具体的に示す計画にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院で、見なくなった週刊誌を提供してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人希望のかかりつけ医を継続できるように支援している。無断外出した利用者さんのかかりつけ医に相談して薬の調整をもらう。いつでもテルにて相談にのってもらおう。	受診は、毎月訪問診療のホーム提携医のほか、入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療もあり、通院や外来受診は基本家族付き添いだが、事情によっては職員が連れ添い、精神科には職員も同行して本人の日常を伝える場合もある。看護師職員が普段から全利用者の健康管理を含め施設内感染症対策も図っており、昨年度から薬局の協力で薬剤効果の確認や症状変化の早期対応、及び生活記録や三則表をIT化したことにより、受診時に患部映像やデータのグラフ化も可能となるなど、より一層の医療支援の向上を図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調が悪くなり、酸素濃度が低くなり、様子を見ていたが、ナースが宝達の郷に夜勤だったので状態を伝え何かあったら対応してもらおう様をお願いする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応及び看取りの指針に基づき事業所の対応方針を家族に説明している。 かかりつけ医に相談し、食事嚥下出来なくなったら入院した。(家族と相談する。)	契約時に、医療的看護を要せず希望があれば看取りケアを実施するホーム方針を説明しており、毎月のモニタリングや食事が取りづらくなるなどの重度化傾向が見られれば、早い段階で家族に診察をお願いし、診断結果に応じて改めてホームでできる支援や提携医療機関、特養施設を紹介し、悪化しても本人・家族が不安なく進めるよう図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年はしていない。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	無断外出した利用者さんがいて、警察、銀行、コンビニなど、お世話になった。その後皆で話し合う。今年からライングループを使用しているが、使用せずにスタッフに連絡行かなかった人もいたので、反省点もあった。	行方不明も含む症例別の対応マニュアルを配備し、今年度も消防署員による救急救命講習と近隣同法人事業所と合同の看護師職員による実践に即した緊急時対応研修もできなかったため、「ひやりハット」や「安全レポート」の提出の徹底を図り、内容如何ではユニット会議で協議し、事故予防や再発防止につなげている。今年度は無断外出があり、行先の方からの連絡で事なきを得たため、改めてご近所やコンビニや病院等関係機関にご協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している。	協力医療機関は提携病院と医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ病院の訪問診療があり、重度・終末利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時ホーム長に連絡する。ホーム長がホームに着き指示する。夕方熱発しかかりつけ医に相談し受診する。家族が受診に行けずホーム長が受診する。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で夜勤専任職員もいる。日中状況の申し送りに万全を期し、緊急時は24時間対応の提携医療機関に連絡や救急通報をするが、容体等を説明する電話の仕方や管理者・代表者・家族への連絡手順をフローチャート化して臨んでいる。転倒防止のため豆電球を使用しているが、暗くないと寝れないため、寝静まってからそっと付けている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、保育所に避難になっているが、避難までの道路など災害時の対処法を聞く。その時役場にテルシ支持誘導を仰ぐ。11月避難訓練実施。	自治体広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で、日中と夜間、毎回火元も変え、天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施しているが、今年は1回のみ開催で、また相互で避難先となっている近隣保育園まで、被災時に道路の亀裂や倒木があった場合の対処法も、今後の課題となっている。	年2回いずれかの避難訓練に、消防署員立ち会い訓練も加えられ、また予定通り事業復旧継続計画(BCP)を策定されることを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事務所にハザードマップを用意している。	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食や保存水の備蓄品を職員分も含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品も、持ち出しし易いよう玄関近くの更衣室に保管している。被災後の事業復旧継続(BCP)計画の策定も現在着手している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には近所のおばちゃん、時には子供の嫁さん、時には子供になります。一緒にその時に必要な人になります。決して否定はしません。	日常生活に自信をなくす方には、今もある残存能力を例えに励ましたり、花好きな方と一緒に花摘みや草むしりをしたり、昔、番台に座っていた方が唄を思い出し口ずさむと皆も歌いだしたり、昼間は一緒に添い寝をしたり、教師だった頃に校長から叱られた逸話を傾聴するなど、時には近所のおばちゃんや子供のお嫁さん、子供にもなるなどして、話したくなった気持ちに寄り添うことに努め、症状の理解と個性を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大人しい利用者さんが皆でカルタをしたり、しりとりをしたりする中で生き生きとした表情になった。利用者さん同士で仲良く会話する姿が良く見られるようになった。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるようにケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事残す利用者さんでも果物なら食べる人がいる。なんでも好きな物を食べてもらう。手作り弁当をつくり季節感を味わってもらう。誕生日に何が食べたいか聞き、ケーキより和菓子が食べたい。とリクエストある。 今年はホームの柿が大量になり皆で「美味しいね。」と沢山食べる。	献立・調理は専門職員が美味しさファーストで担い、1日でも長く好きなもの食べたいものを食べてもらいたい思いで臨んでいる。利用者も下拵えや後片付けに加わり、ずいきの皮むきは職員より上手である。食材はスーパーで購入だが、近所や家族からのお裾分けもあり、今年は自家菜園の柿が大収穫で皆で味わい、サーモンの刺身も大好評だった。時にはパン食にしたり、旬食材で手作り弁当を拵えたり、中庭の枝垂れ桜を興じての寿司定食、バーベキューや流しそうめんも、誕生日のケーキは和菓子に変更のリクエストにもお応えし、笑顔をお見せ頂いている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録したり栄養バランスを配慮しながら献立を立てている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導し、失禁無いよう心掛ける。認知のある利用者さんがトイレの間隔がわからないけれど、ウロウロしたらトイレ誘導したりする。	排泄はほぼ自立している方が多く、昨年度から排泄管理をタブレット入力に変更し、モニタリングやユニット会議等での適切なパットや紙パンツ、防水シート等の介護用品選定や介助の仕方、誘導タイミングの検討を充足して臨んでいる。また日頃野菜、乳酸菌、牛乳寒天の摂取、果物缶で糖分補給、体操、腹圧マッサージ等々、本来の能力を引き出すとともに、薬局薬剤師に成分や処方を確認するなど、便秘・頻尿や失禁等を軽減させ、正常な生活習慣となるよう取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。牛乳寒天OS1飲んでもらう。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴だが希望があれば対応する。月～金まで入浴する利用者さんもいる。	入浴は、土日を除く午前中に週2回以上を目安にご利用頂いており、入居前は毎日入られていた方と感染症予防で清潔保持が必要な方には、平日は毎日入浴して頂いており、また嫌がる方には勧める職員や日を変えてご利用頂いている。入浴剤は数種あり、湯加減や一番風呂等のご要望にもお応えしており、自分専用の洗髪剤を使う方もいる。衣服着脱も含め簡易な見守りで単独で入浴される方には、脱衣室前に「入浴中」の紙看板を置いて、ゆっくり寛いで頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫のひどい利用者さん 日中足を伸ばしてもらっている。浮腫が軽減された。昼、畳の間でスタッフと一緒に横になり、昼寝をしたりする。一緒にいることで安心している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	学校の先生をしていた利用者さん。校長先生に怒られた、など昔ばなしをしたり、学校で習った歌を歌ったりする。それにつられて皆で合唱する。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中々外出出来ず、渚ドライブや 近所にドライブなどの息抜きしか出来ず。	感染防止で、通年していた福祉ワゴン車をチャーターして皆で外食を兼ねた花見や紅葉狩り等に繰り出す企画や、利用者で行く食材・日用品の買い出しは断念しているが、それでも人と会わない時間帯を見計らいマスク着用で散歩したり、千里浜を車窓から見に行ったり、地元の銀杏並木やコスモス畑へ職員と2、3人で出かけている。また、誕生月に個別に食べたいものや行きたい所へ行く支援も、外食なしで継続しており、家族から好きなお菓子が届いた時は皆で祝いながら賞味させて頂いている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で干支の花紙を丸めてつくる。それをホールに飾る。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、提携医指導のもと看護師職員が主となり消毒清掃や窓開け換気も全開や少し開け等こまめに繰り返し、スリッパ消毒棚や応接室にアクリル板を設けるなど、感染対策の徹底を図っている。今年度は皆と創った文化祭出品のお花紙ピクチャーを玄関前ホールに飾り、ユニット出入口の生花の飾り付けでも四季が楽しめ、また中庭の土間打ちコンクリートはしだれ桜を一層映えさせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間に 休憩したり、食卓でかたまってゲームをしたり、疲れたら自室へ入ったり、その都度その人にあった事を行っています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机、椅子、タンス、鏡など、自分の家にあるものを持ってきてくれたが、認知の進んだ利用者の為、物が壊れたりしている、家族さんも本人の好きなようにして下さい。と暖かく見守ってくれています。	居室は全室洋室でベッドが備え付け。危険物以外、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされている。ラジオ好きでこもりがちの方やホームの夏祭りイベントで贈呈した犬のぬいぐるみがお気に入りの方、別ユニットに同じ職場だった方がおり往来している方、今年度は不眠解消に家族からエアーマットを頂いた方や携帯電話を持ち込まれた方もいる。運動機能に応じて、家族と相談しながら適宜に配置換えをして、安心安全環境を図っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		